

# 福島稻荷神社縁起

鎮 座 地

三田市福島守下龍王谷 137 番地

御 祭 神

正一位稻荷大明神 保食神

御 神 德

五穀豊穰・商売繁盛・無病息災・諸願成就

祭 日

夏祭 /7月18日 田楽（市指定無形民族文化財）、獅子神樂奉納

秋大祭 /10月第2日曜日 田楽、獅子神樂奉納、御神輿、檀尻巡行

營 造 物

本殿は弊殿及び拝殿を配した流造

境 内 社

戎神社……祭神は農業・商業神である事代主尊

三坂山神社……祭神は農耕神である宇賀魂命

祇園神社……祭神は除疫神である牛頭天王

境 内

約四百四十坪

由 緒

当神社は穀物の起源神である保食神を奉祀し、

産土神としては三田市内で唯一の稻荷神社である。

かつて、村の東北東に位置する八幡字栄ヶ谷に鎮座する

八幡神社（祭神 應神天皇）を産土神としていたが、

安土桃山時代の天正年間（1573年～1951年）に

村内の稻荷神社を産土神とした。

明智光秀の丹波攻めに際して、当村にあった光徳寺が

青野村青林寺と共に敵対する

篠山八上城主波多野秀治に兵糧を送ったため、

これに怒った光秀が光徳寺を焼き払い、その時稻荷神社も類焼した。

そこで八幡、稻荷の両社を合併して産土神としようとしたが、

度重なる事故に相い、稻荷神社のみを田社地の宇赤江から

字下龍王谷に移転して社殿を再建した。

江戸時代に至り、天災によって社殿を焼失したことから、

元禄二年（1689年）正月に造営の談合なし、

六十余人の人々が力を合わせて資金を調達、

同年十二月に遷宮し造営がなったとの棟札が残されている。

また、神宮寺として世應山普門寺の名が見られる。伝説として

「毘沙門社、恵比寿社、嚴島社、琴平社、大歳社、八幡社あり、

当社を合わせて七社なり、これを俗に七福神とし、村名を福島と称した」と

村名の由来が伝えられている。

しかし、時の三田藩主が稻荷神社を除く六社の社殿を破壊し、

神木を伐り倒して社地を開墾させ、藩の稻の種取り場とした。

その後も社殿の再建を許さなかったので、村人は見るに忍びず相談のうえ

各私有地に小祠を建て靈代を遷して私社として祭祀した。

今も地区内に点在する各社は、区民により毎年祭礼が執り行われている。

本殿に残された棟札によると、

宝曆二年（1752年）に再建したことがわかる。

さらに明治十三年（1880年）に柿藁春日造の本殿を造営したが、

昭和二十九年（1954年）九月の台風15号により

境内の老杉三本が倒れ社殿が全壊、同三十三年秋再建された。

現在の社殿は、平成十九年（2007年）五月に再建、

引き続き戎神社の完成を待って11月17日に

正遷宮奉祝祭を挙行したものである。

平成20年1月吉日

福島稻荷神社氏子中